

かけはし



イタリアと一宮の小学生交流



スイーツで作ったスーパーカーや"いちみん"



アート犬をつくろう!



国際交流員ガイドさん



東北復興チャリティー炊出し



お茶会
イタリア出身小林さん

世界は友だち! イタリアフェア ~東北復興の願いとともに~

一宮市とイタリア・トレビゾ市の交流は、絵手紙交換をする小学生・尾州産の織物を使いファッションショーを行うイタリアの大学生を通して「絆」「縁」を深めてきました。これからますます両市の関係が深まることを願い、イタリアをキーワードに、音楽・スイーツ・体験型イベントを市民と一緒に楽しみました。同時に東北復興の願いをこのフェアに込めチャリティーイベントを行いました。

外国人と、家族連れで いっぱい歩いた！ いっぱい食べた！



小春日和の秋の一日、外国人ゲストと一緒に木曾川庁舎をスタートして、その周り5.2Kmのコースを7組に分かれて、歩きました。

一般からは、小学生や、ベビーカーを押した親子連れなど約50人の参加がありました。

今回は当市国際交流員のガイドさん、ジャッククリーンさんやその友達、名古屋大学からは留学生、木曾川高校の交換留学生などの参加があり、7カ国の外国人ゲストが集まりました。

この企画は、4年前から始めた催し物で、地域の皆さんとのウォーキングと外国料理を楽しむものです。ウォーキングでは日本画家誕生の碑や、山内一豊出身の黒田城跡を巡り、その地点でボランティアの皆さんによる、クイズが出されていました。

子どもたちは、この後のバーベキューや外国の人が作ってくれるその国の料理が楽しみらしく、疲れる様子もなくどんどん歩き進んで行きました。

少し蒸し暑さを感じる中、意外にもすべての人が完走し、終点に用意されていたペットボトルのお茶を美味しく飲んでいました。

また。一息ついていると、肉の焼き上がる良い匂いとともに、ブラジルの牛の串焼きや、ジャンボソーセージが出来上がってきました。また、名古屋大学の留学生でウズベキスタンの男性が作った、羊肉の入った炊き込みご飯風の「プロフ」は、は、人気で、結婚式などの祝いの席では、かならず出される料理だそうです。

数年前にホームステイプログラムで、今回プロフ作った彼を受けたという家族が、彼に会いに来ていて、久々の再開とプロフの味を懐かしんでいました。

皆、おなかいっぱい食べて、歩いた疲れなんか、いっぺんに吹き飛んだ様子でした。毎回この企画が、人気の高いのは十分わかりました。一度参加したら、やみつきになりますね。





ケーキ作りに 手打ちそば 皆で手作りしたよ!!



—— 青年の家調理室 12.3 ——

「お皿にお菓子を取り分けて！」の呼びかけで、皆が動きだした。日頃おとなしい子供が、やけに、はしゃいでいる。10時スタートなのか、その頃には参加者がどんどん集まってきて、3カ国15人の子どもとボランティアの人で、調理室はいっぱいになった。

まずは、大人気のビンゴゲームから。別の机ではそば打ちが始まる。初めてそば打ちを見る子どもや、大人で人だかり。手際よくそば粉が麺になって行く。ケーキのスポンジもボランティアが焼いてくれて、1人分に切り分けられたスポンジに、子どもたちが

デコレーションをする。飾りつけは子どもの個性が出る。イチゴやメロンの色取りどりの飾りは、日頃の大変さを忘れさせてくれているようだ。完成したケーキを前に、満面の笑みとポーズを決めて写真を取ってもらっている子もいる。

すべて整ったら、ケーキやお菓子を机に並べて皆でいただくと、子どもからは「おいしい！」の声イツ デリシヤス サブロッソが飛ぶ。「It's delicious!」「Sabroso!」とゆで上がったそばを食べる大人からの声も響いていた。美味しくて、温かなクリスマス会だった。

一宮にある日本語を教える3教室が 12月にゲストボランティアの交流会を開催

日本語ひろば(一宮)

ポトラックパーティー

12/11 一宮青年の家



日本語ひろばびさい

お楽しみ会

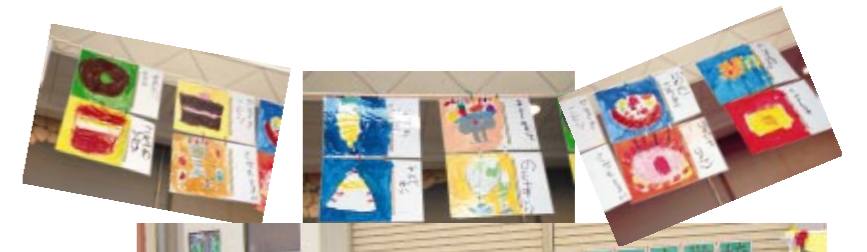
12/18 三条つどの里



一宮にイタリアがやってきました

一宮市の中心街は、初めて開催された『世界は友だち!イタリアフェア2011 ~東北復興の願いとともに~』で賑わいました。ちょうど一宮市の国際交流員は、イタリア・トレビーゾ市出身のガイドさん。流ちょうな日本語でイタリアの習慣を身振り手振りを交えて紹介し、会場を沸かせました。ステージではイタリアのミュージシャンによる楽器演奏や、学生たちの吹奏楽に拍手がおくられていました。アーケードでもいろいろなイベントが催され、フェアトレードワークショップ、編み物を楽しむニットカフェ、綿菓子づくりの実演やスイーツなど、とても人気を集めていました。

イタリア共和国は愛・地球博(平成17年)のフレンドシップ事業交流国です。本紙でも度々ご紹介してきたように、今伊勢西小学校とイタリアの小学校との絵手紙交流や、イタリアのファッションデザイナーを目指す優秀な学生との交流などを続けています。これから一宮とトレビーゾ両市の交流がますます深まり、姉妹都市提携へ向けて進展が期待されます。



ICCで紹介される絵手紙交流を出展した今伊勢西小



スタンプラリー参加でお菓子がプレゼント



国際交流員ガイドさん(手前)がイタリアを紹介



本当に大丈夫かな~?



JICAフェアトレードブース



国際交流ボランティアさんがお菓子づくり



谷市長よりオープニングあいさつ



IIAブースの展示



学生たちによるわた菓子実演

親子で「JICA中部」を見学、地球のアレコレを学んできました。



正月気分もすっかり抜けた1月22日、私たちは「親子国際理解セミナー」で、国際協力機構 中部国際センター（JICA中部）「なごや地球ひろば」とい



う国際協力に関する情報が集まる施設の見学に出かけました。

参加者は、18家族、総勢43人。名古屋までの道路をバス

はスイスイと走り、名古屋笹島に到着しました。

JICA中部「なごや地球ひろば」では、各種展示により世界各国における国際協力を考える学習ができるようになっていきます。

今回は、青年海外協力隊として経験のあるJICA職員から映像を通して、今世界ではどんなことが起こっているのか、どのような問題を私たちは考えなければならないのかなど分かりやすく解説してもらいました。

他にも、参加した親子全員が輪になって「国旗バ

スケット」という国旗と国名を言い当てるゲームで楽しみながら勉強もできました。

JICA中部の建物内を見学した後、昼食は同建物内にあるエスニック料理店で海外の料理を楽しみました。



昼食の後、私たちはバスで金城ふ頭にある「リニア・鉄道館」に向かいました。そこは子供達だけでなく、大人も楽しめる日本の鉄道の歴史と実物がたくさん展示されていました。

館内を駆け回る子供たちに加え、それ以上に目を輝かせた大人もたくさん見うけられ、館内は熱気にあふれ、親子での楽しい時間を過していました。



トレビーズ家庭料理に挑戦!

2012.2.19 尾西生涯学習センター

イタリアの空のような快晴の日曜日、講師スカラベッロ・グイドさん指導のもと、トレビーズの家庭料理●リゼイ・エ・ビゼイ（米とえんどう豆のスープ）●フリッタータ・ロニョーザ（サラミと玉ねぎ入りオムレツ（パン付き））●ティラミスの3種類を作ります。

グイドさん出身のトレビーズは人口8万人ほど、料理には米や、肉や、サラミをよく使うそうです。比較のお金持ちの多い町で、寒いところだが、一宮の方がもっと寒いと笑わせてのあいさつで始まり、4人ずつ6テーブルで作業開始。



まずグイドさんが作り方の説明。各班それぞれ老いも若きも楽しく会話しながら作りあげ、会食。

参加された男性は、「家ではやりませんが、料理は段取りや出来上がりを考えるので頭の体操になる」と理論的な意見。

グイドさんは、「初めての事で慣れてないので、思ったよりむずかしい。下手な指示なのに皆さんが上手に作ってくれてうれしい。よく頑張ってくださいました。ありがとう」の言葉で楽しいクッキングは終わり、皆、笑顔で解散しました。



子どもたちの未来のために、今、できることを…。

「オハヨウゴザイマ〜ス！」

教室内に響く子どもたちの元気な声。毎週土曜日朝、青年の家で開かれている「日本語ひろばジュニア」の風景です。ここで学習しているのは日本語指導が必要な外国をルーツにもつ子どもたち。毎回5～10人が、それぞれのレベルに合わせて、楽しく勉強しています。

「先生、コレ、わからない。」子どもたちの質問に、先生となるボランティアスタッフも笑顔で答えます。

最初は、まったくコミュニケーションがとれずに苦労した子も、今では、漢字の書き取りや日本語の作文が書けるようになりました。「慣れるまで苦労したけど、少しでも手助けになれば嬉しい。」と話すスタッフ。今では、すっかり打ち解け、家族の話や将来の夢まで話してくれる子どももいます。この日本語ひろばジュニアは、2009年に教室を開設してから3年が経ち、一昨年からは、外国籍の子どもが多く通う一部の小学校などでも、活動の範囲を拡げています。

現在、市内の小中学校では、70名弱の日本語の学習支



援が必要な子どもが在籍しています。市教育委員会では、母語の話せる「日本語指導員」9名を各学校に派遣して子どもたちの学習支援や母語での相談にあたっています。ところが、年々、支援が必要な子どもたちの数が増加し、

また、日本語ひろばジュニアにも、様々な事情で参加できない子どもたちがいます。

そこで、協会では、こうした子どもたちへの支援を、さらに充実したものにするため、今年度「外国人の子どものための日本語の教え方ワークショップセミナー」を2ヶ月にわたり開催し、子どもたちへの日本語支援について学習したり、新たな活動の可能性について、話し合ったりしました。

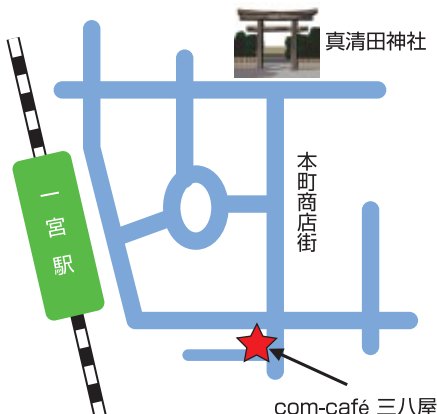


セミナーの後半には市教委関係者や学校に派遣されている日本語指導員、現役の教員にも参加していただき、子どもたちを取り巻く様々な問題点を考え、情報交換を行いました。このセミナーに参加された方からは、「こういう状況の子どもが一宮にもいるということを知って知った。少しでも力になれば」という声が聞かれました。

子どもたちが、言葉のわからない日本で生活をする理由は様々で、それぞれが抱えている問題も小さくありません。しかし、どこで生活するにせよ、「教育」は不可欠です。「将来、この子達がどこへ行っても胸を張って生きられるようにしたい。」と教室のスタッフは意気込んでいます。

協会も日本人・外国人がお互いの文化習慣を尊重し、共に手を取り合って地域で生活できる社会を築き上げていくために、この事業に取り組んでいきます。

リニューアル! 国際交流ウェルカムサロン



新しい国際交流の場がオープンしました！国籍に関係なく自由に集い、交流を楽しんだり、国際理解を深める場所です。第1・2週の日曜日は国際交流員、第3週は外国人スタッフがいます。時間内は出入り自由ですので気軽に来てください。

日時:毎月第1・2・3日曜日 13:30～16:00(祝日、年末年始を除く)
場所:com-café 三八屋(本町4丁目1-9)
※一宮駅から10分、本町アーケード南、信号を渡って20m。右角。

おとなりさん

フィリピンのルソン島出身のアフロング ジェロリザ デグズマンさんは、「日本はとてもきれいなところで、日本人は世界で一番勤勉だよ」と熊本出身の日本人のおばあちゃんから聞いていました。

6年前に福井県にやってきて、暑かったフィリピンの気候から一変、寒さにびっくりしました。雪を初めて見たのもこのときです。

その後、一宮に移り住み、今は羽島市の工場で働いています。勤務先ではたくさんの友達ができ、上司との会話が日本語の勉強にもなっています。日本の生活で一番楽しいことは「仕事」。仕事がたくさんあって、いろんなものを買うことができ、仕送りもできる今の生活にとっても満足しています。そして、日本人が勤勉だという印象は今も変わりません。

家に帰れば、小学校に通う姉妹のお母さん。学校との連絡は、小学校に配属されている日本語指導員やボランティアのおかげで困ることはありませんが、もう少し子どもたちの宿題を自分が見てやれたらと思っています。

今、やりたいこと、行ってみたいところがたくさんあります。これからも日本に住み、頑張っ一つずつかなえていきたいと思っています。



だって、「I love JAPAN!」だから。

ボランティア交流会はウズベク風味で

2012.2.5 青年の家



毎年恒例のボランティア交流会、今年度の交流会は、万博フレンドシップ国のウズベキスタン一色。名古屋大学法政国際教育協力研究センターや日本ウズベキスタン協会の協力を得て開かれ、名大のウズベク人留学生さんたちも大勢参加され、ウズベクダンスの披露もあり、ボランティアの皆さんと楽しく交流されました。

今年度のグループ活動発表の後、ゲストスピーカーとして、日本ウズベキスタン協会の会長でジャーナリストのしまのひろこ嶋信彦さんをお迎えして、講演が開かれました。今後も、一宮市とウズベキスタン共和国との交流が深まっていくでしょう。



編集ボラのひとりごと

国際交流活動をしている時、国際交流とは何だろうと自問自答。それは、外国文化を理解しながら外国の方々とお話すること。ただ、日本語しか出来ない私には難しい。そんなことを気にしていたら何も出来ません。相手を思う心さえあれば、長期のホームステイも楽しめます。皆さんも思い切って国際交流の輪に飛び込んで来て欲しいですね。きっと世界が身近になることでしょう。

(世界はグローバル)